

## 鳥取大学附属図書館報

# Library

The Tottori University Library Information. no.114

## 目次

本と情報そして精神	1
附属図書館の地域連携事業	3
「鳥取県遺跡報告書リポジトリ」について	6
仮設図書館(広報センター)での 図書館サービス	7
ミニ・シリーズ・情報検索コーナーより その 23 「JAIRO」利用ガイド	8
附属図書館利用状況調査	10
本学教員著作寄贈図書	12
鳥取大学附属図書館委員会委員名簿	13
ミニ・トピックス	14

## 本と情報そして精神

川添博光

本の意義について考えてみたい。何かについて知りたいという欲望から、これといった目的はないがその作品を読みたいという衝動から、また気分転換のためにどれでもいいからとか、単に活字を追いたいからなどいろいろな理由で本は読まれその存在意義がある。私の場合、23歳のときから本に対してけちん坊にならないという精神で生きてきた。青年から成年初期の時代はその若さがあるだけでその人には魅力が備わるから、それ程外見に金銭をかける必要はないという奇妙な独断的納得からだ。しかしそれは表面的な人物判断であり、いわゆる内部からにじみ出るような魅力についてではない。では、中から湧き出るような美しさを獲得するには何が必要かと考えたとき、それは豊かな教養という内面すなわち精神に着る服であるという結論に至った。それはすぐには獲得できないであろうから、事前に手を打っておかねばなら

ない。そこでたくさん本を買いそして読んだ。この当時はもっぱら専門書が多かったが、自費購入のため相当額の出費になった。もちろん頑迷固陋に知識のためにと専門書や啓蒙書だけに走ったわけではない。それだけでは疲れてしまう。気分転換としての本の価値はあるし、スポーツや趣味のノウハウ書としての意義からも様々なものを読んだ。

少し余談になるが、週に2~4回ほど書店に通う暮らしを続けると、世の中の動向がある程度見えてくる。書店ではないが研究においても同じようなことが言えると思う。そしていつしかこれから世の中がどう変化していくか、何が必要になるか、そしてどうあるべきか...などその時々で自分なりの意見が、これが的中するか



しないかは別にして、近い将来に対する自らが発信する情報としての意見が生まれるようになる。これは今日の私の生き方に大いに役立っている。このように本を通して知識や情報のみならず、柔軟な思考や豊かな感性をいくらかの実践を通して獲得でき、本の存在意義はかなり大きなものであったと実感している。

幸いにも本を中心とした情報の獲得であったから、現在のようにその過多による混乱や余計な時間を奪われるといったエントロピーの増大にはつながらなかった。ただ若くて今より時間があつたからかもしれない。しかしながら、今日の膨大な情報はそのときの立ち位置すら錯覚するほどの混乱を招きかねない。本や広告を含めた様々な印刷物や電子メディアによる活字と映像は情報伝達的手段として有難い半面、その量的過多はむしろ弊害にもなっている。また、インターネットを通して誰もが容易に情報の発信ができるため、間違つた情報はとても厄介な代物になる。これはその情報を受け取る人の資質に依存すると思うが、盲目的に信用するには危険すぎる側面も併せ持っている。実際、犯罪につながるケースも出ている。自分の専門領域についていえば、明らかに間違つた解説をしているものがあり、これら情報の実質的かつ効果的な規制がない現状ではどうしようもない。今後、これらの情報のあり方、そして探し方が一つの課題になるであろう。

ここで、私たち大学に勤務する者にとって情報を得ることは当然のこととして、情報の発信を行うことに意義があると思う。ではこの情報発信とは...と考えると、それぞれ様々な意見があると思うが、その種類で大別した私見を述べると、大きく分けて3つあると考えている。まず第1は単純に情報を得てそれを周りの関係者にいち早く伝達する情報発信であり、言い換え

れば情報の受信アンテナ兼中継基地のようなもので、これはもつとも低級な情報に属する。しかし、周りの人にとっては有難い情報になることも多い。これが一転、他人を混乱させるだけの、または時間を奪うだけのいわゆる他人のエントロピーを増大するだけの情報であるならば、その中継基地の存在そのものが疑われる。第2は自分から調べて情報を集め、それに解析を加え、そしてそこに自分の意見を加えた情報発信であり、これは中級の情報に相当する。少なくとも私たち大学関係者はこの中級の情報発信者でありたい。多くの研究論文やプラスに作用した社会貢献などはこの中級の情報発信の範疇に属すると思う。最後の情報は、いわばクリエイティブな内容を自分で創作するもので、これは高級な情報発信となる。例として、一般的には芸術家や小説家、デザイナーなどによる作品の創造がこれに属し、少数であるが研究者の中にもこの種の人々が存在する。これは本物の創造者、開拓者であり、それが理解されると素晴らしい仕事につながる。そして人々を幸せな気持ちにさせてくれたり、生活に豊かな恩恵を授けてくれたりする。これができる人は感受性など先天的な資質が備わっているとか、後天的であるならばその人の子供時代の豊富な体験、その後の学習と意欲など個人の努力に依存するのであろう。もちろん時代のタイミングという運の要素も必要なことが多い。繰り返しになるが、大学の研究者、教育者としては少なくとも中級の情報発信者であらねばならないと思う。独断的な意見であるがこのように考えている。

さて、このような本をはじめとする電子メディアを含めた情報は私たちの生活の中に急速に浸透しつつあり、その利便性ゆえにインフレーション的拡大をしている。あたかも初期宇宙の膨張時のようなものであろう。ここで問題とな

るのは、その成長とそれに対する人の受容力のバランスにある。現状は限られた人間の能力に対してあまりにも量的過多であると思う。最少で必要なそして優良の情報が好ましく、余計な情報はむしろない方がいいと考える自分にとって、これにどう対処していくべきかその方策が見つかっていない。現時点で言えることは、少なくとも事典などの類は情報源として手元に置いていいだろうということである。表面的で便利な情報や自分の判断で信じてることができる情報はそのまま活用すればよいが、その他のいわゆる危険な香りがする情報は難しい。受け取る個々の人物の精神に帰着すると考えている。

精神などと突拍子もない言葉につなげたが、今さらながらなんと便利な言葉かとも思う。来日した外国の人に覚えてもらいたいことばの一つ「どうも」に似ている。これはいろんな場面で使うことができる便利な言葉である。さて、

この精神という言葉は、私にとって高校生の時に父から薦められた亀井勝一郎氏の「我が精神の遍歴」という本に起点がある。その内容はさておき、私にとっての精神とは空袋のように無実であるがとても重い、そしてその人のパーソナリティを形成する基幹部分のようなものとして捉えている。情報の採取と理解そして発信はその人の精神に依る、特に責任のあり方にあると思う。これからの大量の情報化社会を暮らすとき、本を含めた種々の情報を、それらを基に培った我々自身の優しくて美しい精神をもって、それこそ英断的に取捨選択して行かざるを得ないのかもしれない。そのためには精神を培いたいものである。

(かわぞえ ひろみつ：大学院工学研究科 教授)

## 附属図書館の地域連携事業

附属図書館では、現在、鳥取県の公共図書館（1県4市1町）と協定を結び、連携を強化し相互協力、連携事業を共同で実施している。鳥取大学の「知と実践の融合」の理念に基づき、地域社会の産業と文化等への寄与を目標として、県内公共図書館と共に地域社会への貢献を図っている。

その中で、平成18年から「地域の図書館レベルアップ貢献事業」「地域を支える情報拠点としての図書館サービスの展開」事業を実施し、鳥取県内の図書館職員のレベルアップを図り、更なる図書館サービスの向上に努

## 県内図書館との連携―

森田 正

めている。

### ◆平成18年度

平成17～18年度に公共図書館との連携が進み、附属図書館と公共図書館で協議して「地域の図書館レベルアップ貢献事業」を企画し、学内予算の要求を行った。その結果、学長裁量経費で予算化され、2つの事業を実施した。

①「患者・家族・市民の視点に立った図書館でできる健康・医療情報の提供」石井保志氏（健康情報棚プロジェクト代表）

近年医療情報への関心が大きくなっている。鳥取県では県立図書館を中心に「闘病記文庫」等のコーナー設置が進みつつあり、この講演会により、医療情報提供の必要性が再認識された。

②「図書館サービスと著作権の関係について」南亮一氏（国立国会図書館）

図書館に携わっている者にとって、一番関心の高い著作権について、具体的な事例を交えながら説明を受けた。質問コーナーでは多くの質問が寄せられ、有意義な講演会となった。

初年度の最初の試みはとても有益であり、専門分野の外部講師による研修会は、内容の濃いものとなり、地域図書館職員の資質向上の一歩となった。



#### ◆平成19年度

平成17年度から開催している鳥取地区図書館実務者連絡会議（県立図書館、鳥取市立図書館、鳥取環境大学情報メディアセンター図書館の実務者で年2、3回会議を実施）では館種を越えた図書館サービスの向上を検討している。その会議において平成18年度実施事業の反響が大きく、是非ともこの事業を継続して欲しいとの要望もあり、平成19年度からは大学の「地域貢献支援事業」として継続予算を要求した。その結果予算が認められ、①ビジネス情報の提供②コミュニケーシ

ョン力の提供③健康・医療情報の提供④各種文献データベース情報の提供の4つのテーマによる講演会等を実施した。

①「図書館のなぞー取材現場からの報告と注文」千野信浩氏（週刊ダイヤモンド社）

千野氏は図書館を使う技とコツを紹介した「図書館を使い倒す！」の著者として、利用者の立場から色々な支援について言及し、図書館の使命、ビジネス支援への考え方などについて講演された。



②「レファレンスでコミュニケーション」井上真琴氏（同志社大学情報センター）

井上氏は、大学図書館に勤務する立場から、図書館の基本からレファレンスサービスの変容と課題解決におけるコミュニケーションの大切さについて講演された。「図書館に訊け」の著者でもあり、具体的な事例を元に説明が行われた。



③「患者・市民が求める医学情報サービス まず図書館へ行ってみよう！」山室眞知子氏(元京都南病院図書室司書)

平成18年度に続き、関心の高い健康・医療情報をテーマに実施し、全国に先駆けて病院図書室を地域住民にも開放し、医療情報提供を行われた経緯や専門書を提供する際の注意点などの説明が行われた。公共図書館が医療情報コーナーを設置するに当たり、参考となるお話であった。

④「各種文献データベース情報の提供」金子尚登(附属図書館司書)

鳥取県看護協会情報研修会において、図書館職員が講師を務め、データベース研修を2回実施した。大学図書館職員も講師として地域住民への貢献を行った。

この年は、図書館関係図書の著者を講師に招き、鳥取県では、滅多に聞けない講演であり、参加者も多く好評であった。また、図書館職員も資質向上を図るため講師となり、積極的に参加した。

#### ◆平成20年度

平成18年、19年度の事業実績が積み重なり、平成20年度も「地域を支える情報拠点としての図書館サービスの展開」事業として予算を得た。

①「医療・健康情報提供のスキルアップ講座」辰巳公一氏(国立国会図書館)、市川美智子氏(愛知医科大学医学情報センター図書室)、野沢敦氏(鳥取県立図書館)

辰巳氏からは、公共図書館による医学情報の提供についてのレファレンスに役立つ情報の収集方法を、市川氏からは、公共図書館と大学図書館が連携して医療・健康に関するパスファインダーを作成された事例や作成方法

について学んだ。アンケートでは「早速利用者教育に役立つ」「医療・健康情報の必要性を実感した」などの意見が多数寄せられた。



②「出版の現在、図書館の未来」清田義昭氏(出版ニュース社代表)

出版関係の情報誌「出版ニュース」を発行されている講師により、出版界の現状についての説明があった。日本出版界の最新情報がわかり、また、図書館も文化を支える大きな役割を担っていることを考えさせられた。



③「市民のための図書館—公共図書館の新しい役割」常世田良氏(日本図書館協会理事)

日本図書館協会の立場からお話があり、公共図書館こそが、個々の市民にとっては、今後の情報収集に重要な役割を果たすことができると説明された。この日は、県立倉吉厚生病院が附属図書館及び倉吉市立図書館と相互協力協定を締結した日であり、全国にも数少ない取組にも関心が寄せられていた。

この年は、図書館情勢や出版界の動向など全国レベルの情報収集が図られ、また、鳥取県内公共図書館において医療・健康情報コーナー等設置図書館が増加している中、「医療・健康情報提供のスキルアップ講座」研修は大変有益なものとなった。

#### ◆平成21年度

平成21年度も「「地域を支える情報拠点としての図書館サービスの展開」事業を実施中であり、9月に米澤誠氏（国立情報学研究所）を講師に「インターネットで探す！大学の研究成果」を実施した。同時に図書館職員も講師として実習指導を行った。12月には「医療・健康情報提供のスキルアップ講座2」を計画中である。

このような全国的にも例のない大学図書館が公共図書館を巻き込んだ地域連携事業活動により、鳥取県内図書館のレベルアップ、各

図書館職員の資質向上が図れ、地域住民へのサービス向上につながっている。特に、鳥取県内の公共図書館では、医療・健康情報コーナー設置館がすでに9館に増え、この事業も少なからず地域住民への医療・健康情報提供に大きく貢献していると考えられる。

鳥取県では県立図書館を中心に、知的ネットワークを核に、県民に役立つ図書館づくりをめざし、県内の公共図書館、高等学校図書館、そして大学図書館とが連携を強化し、県民に対する図書館サービスの向上が図られている。附属図書館においても県内図書館と協力し、より良い図書館サービスが提供できるよう、県民に役立つ大学図書館として充実を図っていきたい。

（もりた ただし：学術情報部図書館情報課統括司書）

## 「鳥取県遺跡資料リポジトリ」について

前号に掲載しました「鳥取大学研究成果リポジトリ」のほかに鳥取大学附属図書館ではサブジェクトリポジトリとして「鳥取県遺跡資料リポジトリ」を公開しています。このリポジトリは、平成20-21年度国立情報学研究所C S I 委託事業「遺跡リポジトリの構築：中国5県域から広域連携へ」として採択され遺跡発掘調査報告書の電子版の収集・蓄積・公開の支援を目的としたものです。鳥根大学を中心として中国地区国立大学5大学のサーバに各県のデータを蓄積し公開しています。鳥取県の遺跡発掘調査報告書については、鳥取県埋蔵文化財センター、各市町村教育委員会および各文化財団に対して公開のための著作権の許諾申請を行い、許可をいただいたものについて電子化を行い、データ登録をおこなっているところです。今後は、全国的な規模へ広がっていく予定です。

このリポジトリは、次のURLで公開していますのでご利用ください。

<http://rar.lib.tottori-u.ac.jp/Repository/Index.e>





メイン画面



リポジトリについての問い合わせ先：  
 図書館情報課 学術情報担当  
 TEL:0857-31-5673 (内 7060) FAX:0857-28-6346  
 mail:ac-gakuju@adm.tottori-u.ac.jp

## 仮設図書館（広報センター）での図書館サービス

○開館時間（従来どおり）

	学業期	休業期
平日	9:00~21:00 (試験期は22:00まで)	9:00~17:00
土・日・祝	9:00~17:00	閉館

○サービス内容（★は学内者のみ対象）

- ☆閲覧 ☆貸出 ☆返却
- ☆利用者用パソコン
- ☆電子ジャーナル及びデータベース
- ☆図書館ホームページ、蔵書検索
- ★文献複写申込（他館からの取り寄せ）
- ★研究室配置の図書購入申込
- ★研究室配置の図書・雑誌受渡し



仮設図書館（広報センター）

## JAIRO < 学術機関リポジトリポータル > 利用ガイド

JAIRO(呼称:ジャイロ)は **Japanese Institutional Repositories Online** の略称です。

JAIROは日本の<sup>\*</sup>学術機関リポジトリに蓄積された教育・研究成果を横断的に検索できるツールです。

平成 21 年4月 1 日に正式公開され、平成 21 年 9 月現在、大学等研究機関が 126 機関、72 万件以上のコンテンツが収録されています。

\* 学術機関リポジトリ……大学等の研究機関がその知的生産物を電子的形態で集積、保存し、無料で公開するために設置する電子アーカイブシステム

### 【収録種別】



### 【JAIRO検索画面】



JAIROに登録されているコンテンツの中には、本文が登録されていないものもあります。ただし、「鳥取大学研究成果リポジトリ」は、すべて本文を登録しています。

JAIROに収録されている論文等は、無料で読むことができます。ただし、CiNiiへのリンクをたどった場合、CiNii内のコンテンツが有料である場合があります。

## 【JAIRO詳細情報画面】

このアイテムのアクセス数:7回 (2009/09/10)  
<http://jairo.nii.ac.jp/0112/000000918>

**書誌情報**

「地域学」を創る 鳥取大学地域学部の試み- 2  
チイキ ガク ラツクル トットリダイガク チイキガクブ ノ ココロミ 2  
Creating a Theory of Regional Sciences : A Challenge for the Faculty of Regional Sciences, Tottori University Part II

御原 邦光, 韓 燕麗, 仲野 誠, 野田 邦弘  
地域学論集 鳥取大学地域学部紀要  
5(3), pp.253 - 276, 2009-03-30, 鳥取大学 地域学部  
ISSN:1349-5321  
NII書誌ID(NCID):AA12025489

この情報は鳥取大学の  
[No Image](#)  
鳥取大学研究成果リポジトリ  
によって作成されています。

書き出し:  
Refer/BibTeX形式  
BibTeX形式  
TSV形式

[検索翻訳](#)

翻訳機能がついています

本文を読む  
[http://repository.lib.tottori-u.ac.jp/Repository/file/1085/20090721114724/rs053\\_04.pdf](http://repository.lib.tottori-u.ac.jp/Repository/file/1085/20090721114724/rs053_04.pdf)

本文が別画面で表示されます

この他、「資料の種別を指定」、「機関を指定」をして検索できます。

- GeNii(NII学術コンテンツ・ポータル)からも、CiNii、Webcat Plus、KAKEN、NII-DBRと一括検索できます。

<http://ge.nii.ac.jp/>

- PORTA(国立国会図書館デジタルアーカイブポータル)からも、JAIROを含めた43のアーカイブが検索可能です。

<http://porta.ndl.go.jp/>

### ★ 海外のリポジトリ

OAister <http://www.oaister.org/>

Scientific Commons <http://www.scientificcommons.org/>

現在、鳥取大学でも収載コンテンツの収集および登録を進めています。詳細は前号の“「鳥取大学研究成果リポジトリ」について”をご覧ください。

リポジトリ搭載にご協力ください！

ご不明な点は、お気軽に学術情報担当までお問い合わせください。

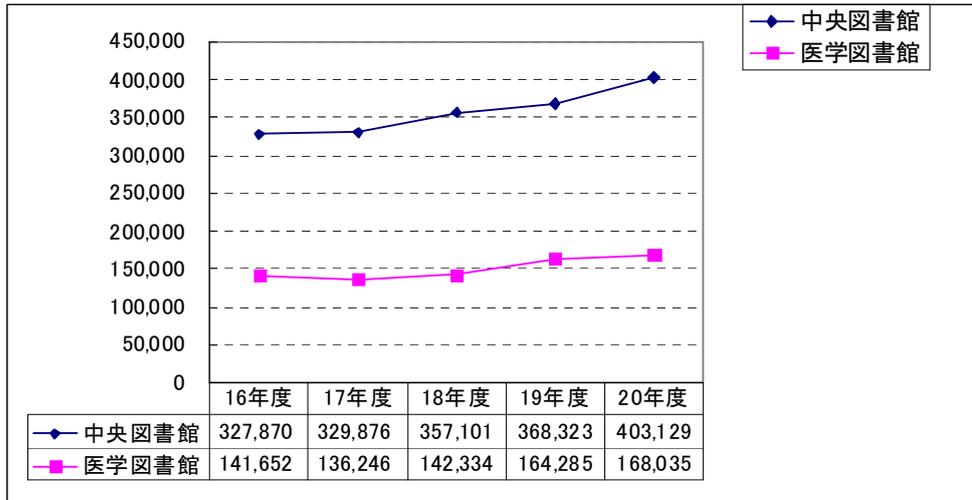
TEL: (0857)31-5673(内線7060) E-mail: [ac-gakuju@adm.tottori-u.ac.jp](mailto:ac-gakuju@adm.tottori-u.ac.jp)

## 附属図書館利用状況(最近5力年)

### 年度別開館日数

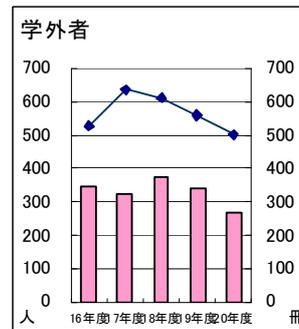
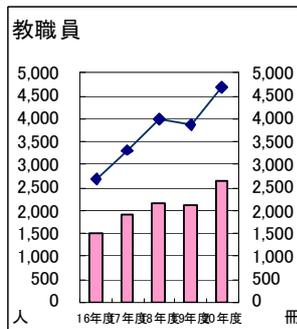
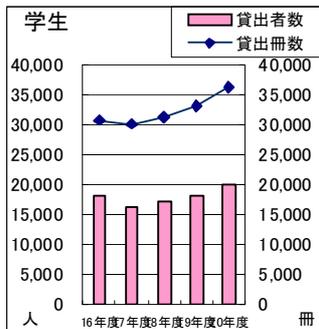
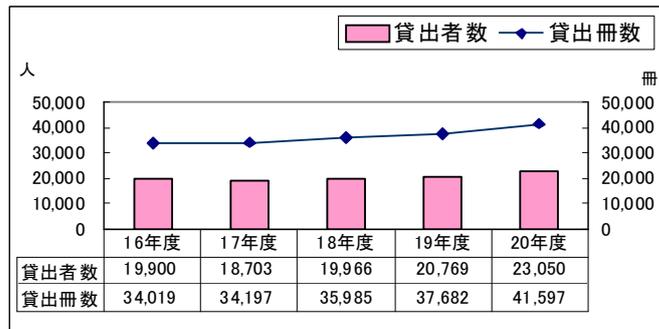
	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
中央図書館	312日	314日	311日	312日	310日
医学図書館	331日	333日	327日	308日	326日

### 年度別入館者数

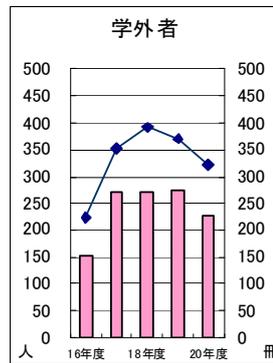
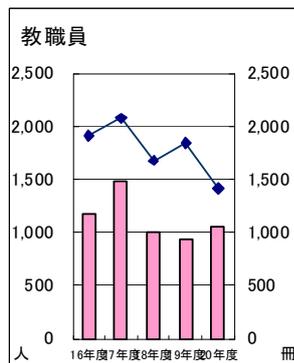
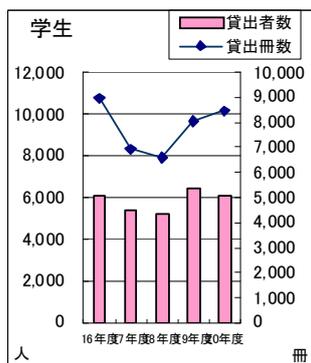
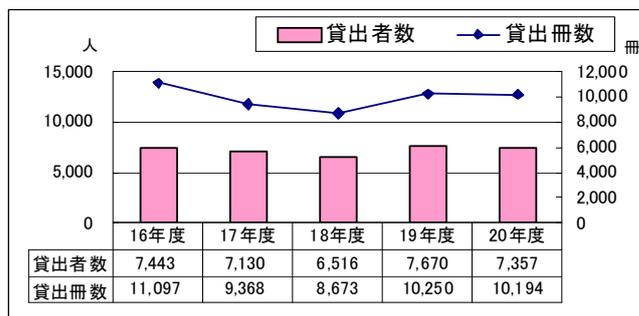


### 年度別貸出者数・冊数

#### 中央図書館



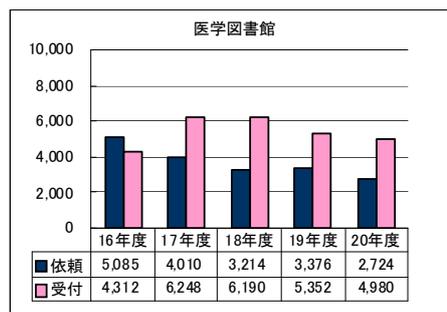
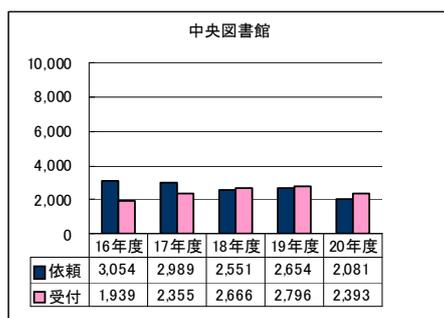
医学図書館



平成20年度分類別貸出冊数

分類	中央図書館		医学図書館	
	冊数	割合	冊数	割合
0 総記	5,279	12.7%	31	0.3%
1 哲学	1,090	2.6%	233	2.3%
2 歴史	944	2.3%	9	0.1%
3 社会科学	6,377	15.3%	68	0.7%
4 自然科学	10,326	24.8%	9,570	93.9%
5 工学	5,695	13.7%	7	0.1%
6 産業	3,442	8.3%	4	0.0%
7 芸術	1,447	3.5%	207	2.0%
8 語学	1,932	4.6%	3	0.0%
9 文学	5,065	12.2%	62	0.6%
総数	41,597		10,194	

文献複写学外依頼・受付件数



## 本学教員著作寄贈図書

(平成 20 年 10 月～平成 21 年 9 月受入分)

この度は次のように寄贈していただきました。誠にありがとうございました。

本来ならば、「本学教員著作寄贈図書コーナー」に配架し、利用していただけるところですが、耐震工事のため、本年度はご利用できません。

複本があり仮設図書館配架のもの(\*)は利用できますので、OPACで検索、またはカウンターでご確認のうえ、ご利用ください。

	著 者	書 名	出 版 社 (者)
HO	細井由彦 (工学部)	湖山池の人々	[細井由彦] [2007.3]
IN	井上光弘 他監訳 (乾燥地研 究センター)	HYDRUS-2D による土中の不飽和流れの 計算 / D. Rassam, J. Simunek, and M. Th. van Genuchten 著	農業土木学会土壌物理研究 部会 HYDRUS グループ 2004.3
KA	門田眞知子 (地域学部)	世界の神話から見た因幡の白兔	鳥取大学 [2005]
KA	門田眞知子 (地域学部)	(*)因幡の白兔神話の謎 : 比較神話か ら読み解く	今井出版 2008.5
MI	道上正規 (前学長)	道上正規博士退任記念論文集	道上先生退任記念事業会 2005.6
MO	毛利亮太郎 (名誉教授)	(*)上野焼尊楷渡来の研究 : 毛利吉成 説の確立	歴研 2009.1
NO	野田邦弘 (地域学部)	(*)創造都市・横浜の戦略 : クリエイ ティブシティへの挑戦	学芸出版社 2008.8
NO	能勢隆之 (学長)	健康政策医学分野業績目録 : 能勢隆 之教授退官記念	鳥取大学医学部医学科社会 医学講座健康政策医学分野 2006.10
OK	岡田昭明 (地域学部)	(*)地域環境学への招待 : 人と自然の 共生・地域資源の活用をめざして	三恵社 2009.3
00	大北英太郎 (名誉教授)	鳥取県林業史木材史 : 森と木をめぐ る歴史	鳥取県 1993.3

SA	佐藤俊夫 (農学部)	有機農畜産業論	北京聯華同興廣告日本支社 2008.12
SH	篠田雅人 (乾燥地研究センター)	(*)乾燥地の自然	古今書院 2009.3
TA	高口明久 (地域学部)	地域と教育：高口明久教育社会学の 検証	鳥取大学地域学部地域教育 学科：鳥取大学生涯教育総 合センター 2009.3
TA	高塚人志 (医学部)	(*)赤ちゃん力：人との関わりが人を 育む	エイデル研究所 2008.12
TO	遠山正瑛 (名誉教授)	風去来：遠山正瑛先生生誕百年記念 誌	日本沙漠緑化実践協会 2006.2
UR	浦上克哉 (医学部)	(*)これでわかる認知症診療：かかり つけ医と研修医のために	南江堂 2009.1

## 鳥取大学附属図書館委員会委員名簿

平成21年4月

所 属	職 名	氏 名	任 期
附属図書館	館 長	高阪一治	平 21. 4. 1 ~ 23. 3.31
医学図書館	医学図書館長	岸本拓治	平 20. 4. 1 ~ 22. 3.31
地域学部	教 授	田中 仁	平 20. 4. 1 ~ 22. 3.31
〃	准教授	溝口達也	平 21. 4. 1 ~ 23. 3.31
医 学 部	教 授	前田隆子	平 20. 4. 1 ~ 22. 3.31
工学研究科	教 授	川添博光	平 20. 4. 1 ~ 22. 3.31

〃	准教授	有井士郎	平 21. 4. 1 ~ 23. 3.31
農 学 部	教 授	山本福壽	平 20. 4. 1 ~ 22. 3.31
〃	准教授	保坂善真	平 21. 4. 1 ~ 23. 3.31
連合農学研究科	教 授	東 政明	平 20. 4. 1 ~ 22. 3.31
産学・地域連携推進機構	教 授	岡本尚機	平 21. 4. 1 ~ 23. 3.31
生命機能研究支援センター	准教授	森 本 稔	平 21. 4. 1 ~ 23. 3.31
乾燥地研究センター	教 授	井上光弘	平 20. 4. 1 ~ 22. 3.31
教育センター	教 授	福安勝則	平 21. 4. 1 ~ 23. 3.31
総合メディア基盤センター	教 授	石田 雅	平 21. 4. 1 ~ 23. 3.31
医学図書館	准教授	海藤俊行	平 21. 4. 1 ~ 23. 3.31

## ミニ・トピックス

### 「鳥取市立中央図書館移動図書館車」がやってきた！

4月から、鳥取市立図書館移動図書館車「なかよし号」が鳥取大学にやって来ます。移動図書館車は屋台の図書館のようなもので、なかよし号には毎回違う2000冊以上の本が積まれて来て、実際に手に取って選んで借りる事ができます。

市立図書館の貸出カードで貸出ができますが、持っていない方は当日作る事もできます。ぜひ一度のぞいてみてください。

日 時：毎月第1と第3木曜日のお昼休み  
(12:20-13:00)

場 所：工学部前（来年4月以降は図書館前）

移動図書館車に関するお問い合わせは・・・



図書館カウンター か 資料サービス担当

電話：0857-31-5672（内線 7050）

E-mail：ac-shiryousa@adm.tottori-u.ac.jp まで

## 「鳥取県観光展」を開催しました

4月20日（月）から5月21日まで、図書館1階ロビーで、鳥取県内の観光地のポスターやパンフレットを集めた観光展を行っています。

主に鳥取県外出身の新生に鳥取を知って貰うことを目的とし、ポスター20枚の展示と、持ち帰りできるパンフレット約30種を置いています。

通りすがりにポスターを眺めて行く方も多いのですが、鳥取県の地図を見ながら、観光地の思い出や行き方などについて話し合う姿が見かけられます。

観光展は鳥取環境大学との同時開催で、ポスターやパンフレットは鳥取県立図書館のご協力により借用しています。



## セミナー「インターネットで探す！大学の研究成果」を開催

鳥取大学附属図書館では、「地域を支える情報拠点としての図書館サービスの展開」事業として、21年9月11日（金）午後2時から5時まで、本学総合メディア基盤センターを会場として、セミナー「インターネットで探す！大学の研究成果」を開催しました。セミナーの前半は、国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課長米澤誠氏による「学術情報のオープンアクセス」と題した講演、後半は、当館山根司書による演習を行いました。

米澤氏による講演は、図書・論文・百科事典などのオープンツールや、国立情報学研究所によるコンテンツサービスの紹介から、レポートの書き方にまで及びました。また、実習ではさまざまなサイトや使い方の紹介を行い、参加者からは大変勉強になった、今後活かせる内容だったと大変好評でした。



## インターンシップを受入れました

本年度も8月および9月に2名のインターンシップを受入れました。中央図書館では9月7日～11日の間、鳥取短期大学から1名、医学図書館では8月24日～28日の間、松江高専から1名をそれぞれ受入れました。

実習内容としてカウンター業務、図書資料の受入、書架整理、展示の企画、情報検索等をおこないました。



## 平成21年度第1回 鳥取地区図書館実務者連絡会議を開催

鳥取地区図書館実務者連絡会議を、6月8日に鳥取大学広報センターで開催しました。県内東部の大学図書館と公共図書館から実務担当者9名が参加して行いました。各館の活動状況報告に続き、今年度の地域貢献事業について、職員相互派遣研修について協議を行いました。

鳥取大学附属図書館報 第114号 (2009年10月)

〔編集・発行〕 国立大学法人 鳥取大学附属図書館中央図書館

〒680-8554 鳥取市湖山町南4丁目101番地 [TEL] (0857)31-6727 [FAX] (0857)28-6346

〔E-Mail〕[tosyokan-m@adm.tottori-u.ac.jp/](mailto:tosyokan-m@adm.tottori-u.ac.jp/) [ホームページ]<http://www.lib.tottori-u.ac.jp/>

Copyright(C)国立大学法人 鳥取大学附属図書館 【本館報について一切の無断転載を禁止します】

